

平成29年
12月15日号

みのり

【発行】
早通小学校区
コミュニティ
協議会広報部

～「塞ノ神」に集まれ～

新年を祝う「塞ノ神」が平成30年1月8日（成人の日）の正午から、早通小学校裏の空き地で実施されます。塞ノ神は、病気や災害などの不幸が地域に入ってくるのを遮ってくれる（塞）神様です。

燃え上がる火に、するめをあぶり、甘酒を飲んで、みんなで新年の幸せを祈りましょう。

11月3日に上早通で「ヨシ刈り」を実施、大きな塞ノ神を作る材料も準備しました。するめは今年も早小の児童が竹の棒の先に取り付けてくれます。子どもも親も大勢来ててください。



日時；平成30年1月8日(月) 正午から2時まで
場所；早通小学校裏空き地

《H29年後期実施事業》

月 日	名 称	参加者人数	内容・特徴
8月 3日	夏休みお楽しみ会	27人	座禅、写経体験
8月28日	区長懇談会	18人	米山新区長の決意表明
9月 7日	福祉座談会	21人	地域福祉の課題
9月10日	自転車交流会	1人	マニアが多く、地元は寂しい
9月24日	歩け歩け交流会	104人	梨狩りと豚汁のサービス。盛況
10月15日	花いっぱい早通に	87人	早小前を花いっばいに
11月 3日	塞ノ神・ヨシ刈り	10人	ヨシをトラック2台分刈る
11月11日	おはよう朝ごはん	35人	朝ごはんをしっかり食べる
通年で	早小校区子ども見守り隊	有志	児童の登下校を見守る

「夏休みお楽しみ会」は8月3日に行われ、27名が参加しました。午前中は上早通の宗通寺で座禅と般若心経の写経をしました。午後は学校に戻り、講師に岡部祐一さんをお迎えし、カタパルト式ライトプレーン（飛行機）を作りました。子どもたちは自分が作った飛行機を楽しそうに飛ばしていました。



第15回歩け歩け交流会は9月24、秋晴れの下で実施されました。

早小から茅野山の梨畑まで往復7キロを約100人が3時間かけて元気に歩きました。歩いた後は、体育館で豚汁とビンゴゲームを楽しみました。今年の豚汁は「はよしょの会」のみなさんが作ってくれました。



11月11日にコミュニティ協議会主催、亀田地区公民館による「おはよう朝ごはん料理講習会」が開かれました。食生活改善委員さんに朝ごはんの大切さと栄養バランスについて話していただきました。今回のメニューは「イキイキ朝ごはん！」（揚げない酢鶏・きんぴらごぼう・ほうれん草とさつま芋の白和え・ミニ肉まん）でした。親子やお友達と楽しみながら料理を作り、とてもおいしい朝ごはんができました。



10月15日、早小の校庭が色とりどりの花で縁取られました。

江南区内の各小学校で開かれた「子ども会議プロジェクト」の提案で実現しました。

朝10時から児童や自治会・コミ協の役員ら87人が出て、ビオラやパンジーを植えたプランター33個を、道路に面した校庭に並べました。

作業を終えると、体育館に集まり、子どもと大人が仲良くカレーライスをいただきました。楽しい交流会になりました。街をきれいにしたいという子どもたちの声を生かし、小学校とPTA、コミ協が一緒になって、この花を育てていくつもりです。

(早小校区コミュニティ協議会・佐藤洵吉会長)



～待ってないで、自分で動け

アスパークで避難所生活体験会～

アスパークの総合体育館で10月21・22日(土・日)に行われた「避難所生活体験会」に参加しました。6年前「東日本大震災」の時、この体育館は、福島の被災者や帰国する中国人の一時避難所に当てられました。

今回は、新潟市内で「震度6強」の地震が発生、避難所になった同体育館に大勢の市民が詰めかけたという想定です。当日は市内各地から、小学生も含めた57人が参加。うち私も含めた16人が体育館の床で一泊体験もしました。

大地震では、大揺れによる直接死より、その後の「関連死」が3倍も多いというデータがあります。上手な避難所暮らしが、生き延びるために不可欠ということでしょうか。

避難者の数が増えると、行政やボランティアだけでは一時的に手が回らなくなります。そこで避難者自身が、救援物資の配布もしなければなりません。救助をただひたすら待っている「待ちの姿勢」ではだめだそうです。まず自分で動け！ということがとても大切なのです。

小学生が元気よく動いたり、発言したりして、にぎやかな体験会でした。(K・S)



～やったね！6年生 日頃の努力が実を結ぶ～

全国の小学6年生を対象に毎年4月に実施されている全国学力・学習状況調査の結果が8月末、早小に届きました。それによると、本校の6年生は、全国平均を上回る好成績でした。特に算数の思考力を問うB問題では、全国平均を大幅に上回り、思考力・判断力・表現力が身に付いていることが分かりました。

どうして、このような好成績となったのでしょうか？6年生の日頃の努力が実を結んだものですが理由として次の3つのことが考えられます。

【考えられる理由】

- 1 授業では、どの児童も課題を解決しようと主体的に考え、さらに友達と一緒に課題を解決している。
- 2 毎日のふり返り宿題では、家に帰って、授業の内容をふり返り、自分の考えや分かったことを書いている。
- 3 ひまわり塾に積極的に参加し、自分が選んだコースで一生懸命に学習している。

この中の「ひまわり塾」は、毎週水曜日の放課後に希望者を対象に算数を中心とした学習を行っているのです。発展コース、宿題がんばりコース、補充コースの3があり、希望する児童がコースを選んで参加しています。補充コースには、指導者として5人のボランティアの方々からご協力いただいています。そして、分かるまで親切に丁寧に指導していただいています。学校・家庭・地域が一つになり、児童が学ぶ楽しさを感じて意欲的に学習に取り組めるような機会を設けていきたいと考えています。6年生の努力に大きな拍手を送るとともに、学校の教育活動に対するご理解とご支援をお願いいたします。「ひまわり塾」では、指導者のボランティアをしてくださる方々を募集しています。ご協力いただける方は、早通小学校（Tel 381-2234）までご連絡ください。



早通小学校区

コミュニティ協議会**事務局**が早通小に設置されました

- ◎ コミュニティ協議会広報誌「みのり」の作成。
- ◎ 安全スタッフ、ふれあいスクール(ふれスク)スタッフなど「あなたもできる身近なボランティア」のご紹介。
- ◎ 地域と学校の声、事務局に伝えます。みなさんの声をお聞かせください！
- ◎ 地域と学校の事業を支援します。みなさんの力をお貸しください。

早通小学校の3階に早通小学校区コミュニティ協議会事務局が設置されました。(地域教育コーディネーター室も併用しています。)

早通小学校の保護者だけでなく、地域のみなさんの団らんの場としても活用していただきたいと思います。お気軽にお越しください！

【水曜日を除く平日の午前9時から11時】

～校区の地名② 「泥瀉」「荻曽根」「泉町」～

今回は「亀田第39区自治会」内の地名です。まず「泥瀉」は、「亀田町史」などによると、江戸時代初期の検地帳に「泥瀉村」が見られます。1624年に開発されたと記されています。「トロ（瀨）」がなまったという説もあります。いずれにせよ当時はひどい湿地帯でした。

泥瀉村には、農家の弟子を教育する「私塾」が江戸時代からありました。ちなみに、明治5年10月に設置された早通小学校の初代校長は、同村の勝山源助氏が務めました。

高度成長期を迎え、新潟の高校へ通う生徒が増えると「泥瀉」の地名では、「住所を書くのが恥ずかし」という声が出てきました。そこで新町名を決める住民投票が行われ、昭和57年5月、住宅地域だけが「泉町」に改称されました。住民投票の1位は「新栄町」でしたが、合併予定の旧新潟市に、その町名がすでにあるということで、第2位の「泉町」が採用されました。「古泉」の姓が多かったことも理由の一つだったようです。しかし、市街化調整区域にある田畑や交通信号、バス停には「泥瀉」地名が残っています。

荻曽根の1部（5丁目の2・4）は、歴史的には「亀田39区自治会」の区域であり、早小校区にもなっています。住宅開発された当時、その地域が泥瀉地区に属していたからです。しかし、その後の区域確定で町名は「荻曽根5丁目」に決定しました。



「荻曽根」は、「オギが生え茂る荒れ地」の意味とされています。しかし、隣接する「船戸山」や「手代山」とともに、亀田砂丘の西端にあり、泥瀉よりも早くから人が住み着いていました。市道亀田南線の建設工事に伴って最近、発掘調査された「亀田道下（みちした）遺跡」（荻曽根2丁目）からは、平安時代以前の土器が多数見つかっています。

30年ほど前には亀田39区内の通称“荻曽根団地”から早小に通学する子どもたちがたくさんいましたが、いまは近くなった亀田西小学校に行く児童が多いようです。（次回は、上早通、中早通、下早通）

《認知症メモ》

認知症についての正しい理解を持ち、誰もが穏やかに暮らすことができるよう、認知症について連載します。今回は認知症の現状と種類についてです。次回からは、症状・予防・接し方を順にご紹介します。

① 認知症の現状

- ・65歳以上の高齢者（約2874万人）のうち認知症を発症している人は推計15%
- ・認知症の前段階である軽度認知障害と言われる方は、約400万人と推計。
- ・65歳以上の4人に1人が認知症とその予備軍。2025年には3人に1人が認知症患者と予備軍になる可能性があります。

② 認知症の種類

●アルツハイマー型認知症（認知症の約50%）

タンパク質が脳神経内に蓄積し、神経のネットワークが壊れておこります。記憶障害、見当識障害、不安、うつ、妄想がでやすくなります。

●脳血管性認知症（約15%）

脳こうそくや脳出血などのため、脳の神経細胞が死んだり、栄養が行き渡らなくなり起こります。意欲が低下したり、複雑な作業ができなくなります。レビー小体型認知症（約15%）特殊なたんぱく質により、神経伝達が障害されるために起こります。パーキンソン症状や幻視を伴い、症状の変動が大きいのが特徴です。

その他、前頭型認知症もあります。

認知症発症約462万人（全体の15%）

軽度認知障害 約400万人

（全体の13%）

健常者 約2217万人

—認知症サポーター養成講座テキストより抜粋—

（江南区社会福祉協議会・高橋桂子事務局長補佐）

～スズメバチ始末記～

この秋、新潟市内で「スズメバチ」が大発生し、我が家もその被害に遭いました。みなさんの家は大丈夫でしたか？今回はその苦い経験をひとこと。

9月28日朝、うちの庭で樹木の剪定をしていた庭師さんのひとりが、突然スズメバチに手首を刺されました。作業は中断、直ちに病院で点滴などの手当てを受け、その日は復帰できませんでした。



駆除した巣の跡

驚いた家内が区役所に連絡し、紹介された業者に駆除を頼みました。

蔵の軒下に、ラグビーボールほどの大きな巣が見つかりました。作業自体は30分ほどで済みましたが、請求された「ハチ駆除サービス代」の高いのにびっくり。作業台4万円＋消費税で4万3200円。「どうしてこんなに高いのか？」と質問したら①作業に危険が伴う②巣が大きい③高所にあった、の3点を挙げ「適正料金」と言われました。

保健所で対応した平成27年以前は、薬代2千円ほどで済んだが、いま業者まかせに変わったという。従って保健所は民間の料金設定には関与していないとか。「巣は私有地にあるのだから、すべて自助努力で」ということのようにです。

ただし、保健所に相談すれば、防護服の無料貸与や薬剤の紹介ぐらいはしてくれるそうです。

来年も出たらこんどこそ「自分で退治しよう」と思いました。（K・S）

～無施錠が狙われやすい～

1、年末・年始の防犯対策

年末年始は「実家に帰省」したり「長期旅行」に出かけるなど、家を不在にすることが多い。また、長年の習慣で「銀行が休みだから」「お年玉用に」などと現金を手元に置くことも多くなりがちです。外出する際には、以下の防犯ポイントを、必ずチェックしてください。

- 新聞、郵便物は止める（たまった状態にはしない）
- 洗濯物はすべて取り込む（干したままの場合は見えない場所に）
- 窓や扉の戸締り（特にトイレ、ふろ場、2階の窓も）



2、他人事ではありません

一昨年、JR亀田駅周辺（早通小学校区内も含む）の商店等をねらった侵入盗事件がいくつか発生しました。（容疑者検挙）。その調べなどからの共通点として

- 犯人は無施錠箇所から侵入
- レジスターに入れたままの現金をねらう。
- 警察への届け出が遅れる（届け出ない例も）



などが挙げられます。

犯罪被害は他人事ではありません。身近にもあります。お互いに注意し、事件事故のない年末年始をお迎えください。（江南署・川上哲也生活安全課長）